

EUSI メールマガジン Vol. 077 「ウクライナと NATO 加盟問題」(合六強)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)
http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/

【EUSI Commentary Vol. 059】 「ウクライナと NATO 加盟問題」 合六強 (EUSI 研究員(政治))

2014年4月から始まったウクライナ政府軍と親ロシア派武装勢力による東部での戦闘は、二度の停戦合意にもかかわらず、今日に至るまで続いている。2015年9月8日の国連人権高等弁務官事務所の発表によると、これまでにこの戦闘による死者は少なくとも7962人、負傷者は17811人に上っている。

このように東部で不安定な情勢が続くなか、ウクライナでは中長期的な観点からいかに自国の安全保障を確保していくかという議論が活発化している。そして現在、その一つの選択肢としての「NATO加盟」に対する国民世論が大きく変化している。そこでこの小論では、NATO加盟に関するこれまでのウクライナ政府の方針を簡単に振り返るとともに、同問題に対するウクライナ国民の意識について世論調査をもとに見ていきたい。

NATO加盟に関するウクライナ政府の方針

まず、NATOとウクライナの関係性を簡単に振り返りたい。両者の関係は、1991年に独立を果たしたウクライナが北大西洋協力理事会に参加したことで始まった。そして1994年2月、ウクライナは他のCIS諸国に先駆けてNATOの「平和のためのパートナーシップ(PfP)」プログラムに参加する。その後、1997年7月に「NATO・ウクライナ間の特別なパートナーシップ憲章」が署名されるとともに、「NATO・ウクライナ委員会」が設置されたことで、両者の協力関係は発展していった。

このようななか、ウクライナが将来的なNATO加盟を目標に掲げ、加盟に向けた準備に着手したのは2002年5月(クチマ政権下)のことだった。そして2004年秋の「オレンジ革命」を受けて2005年に成立したユーシチェンコ政権は加盟に向けた本格的な動きを見せ、NATOとの協議を活発化させていった。しかし・・・

・・・

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol59.pdf>

【EUSI イベントご案内】

1. EUSI Workshop「EU 移民法の行方: ドイツとヨーロッパへの難民流入を受けて」
日時: 2015年10月5日(月) 16:30-18:00

場所: 一橋大学 国立東キャンパス マーキュリータワー5階 EUSI 会議室

「EU 移民法の行方: ドイツとヨーロッパへの難民流入を受けて」
"The Legal Management of Migration in Germany and Europe"
ダニエル・ティム教授 (ドイツ・コンスタンツ大学)

司会: 中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)
言語: 英語

参加: 参加ご希望の方は、10月1日(木)までに、1. 氏名、2. 所属、3. どうやってこのワークショップを知ったかを、info@eusi.jp 宛にご連絡ください。
なお、座席に余裕があれば、当日参加も可能です。
<http://eusi.jp/outreach/2015-1005/>

2. ASEF より「ASEF ヤング・リーダーズ・サミット」参加者募集のご案内

日時: 2015年11月1日(日)-5日(木)

場所: ルクセンブルク (ルクセンブルク大学、欧州投資銀行(EIB)など)

ASEF(アジア欧州財団)は、第12回 ASEM 外相会議(2015年11月5-6日)開催に併せ、この度日本を含め ASEM(アジア欧州会合)参加国 51カ国の若者を招聘し、アジア及び欧州諸国の将来のリーダーたちのネットワーク養成のためのプログラム「ASEF ヤング・リーダーズ・サミット」を開催します。

会期中は、リーダーシップや若者の起業創成・雇用拡大・教育・政府の役割など様々なテーマを議論するのみならず、ASEF やルクセンブルク政府の閣僚級の要人による講演や、モゲリーニ EU 上級代表をはじめとする ASEM 外相会合イベントの参加などが盛り込まれています。

プログラム:

- 1日目 ルクセンブルク到着、歓迎レセプション
- 2日目 ナレッジ・シェア・セッション、パネル、ワークショップ
- 3日目 ブレインストーミング・討論、本会議
- 4日目 EIB 訪問、モゲリーニ EU 上級代表との対話、ASEM 外相会合レセプション
- 5日目 アルセロール・ミッタル社見学 (数名は ASEM 外相会合開会式参加)

http://www.asef.org/images/docs/2015_08_18_ASEFYLS_Programmepdf.pdf

主催: ASEF (アジア欧州財団)

協力: EU、欧州投資銀行(EIB)、ルクセンブルク大学、シンガポール経営大学

後援: ルクセンブルク政府、日本政府

参加資格: 日本を含む ASEM 参加国 51カ国の 18-30歳の学生・社会人(合計 150名)

費用: 大部分の費用は ASEF の支給でカバーされます
(宿泊先・食事は ASEF が手配、渡航費は ASEF が支給(往復エコミー航空券分)、
保険・ビザ申請費用は ASEF が上限付で支給)

応募締切: 2015年9月20日(日)終日(GMT)まで

応募先: オンライン上でご応募ください (詳細は以下の ASEF HP より)

<http://www.asef.org/projects/themes/education/3411-asef-young-leaders-summit-2015>

3. 駐日 EU 代表部及び EUIJ 早稲田より日本・EU 議員シンポジウムのご案内
日本・EU 議員シンポジウム「日本と EU: 共通の課題と協力の可能性」

日時: 2015年9月25日(金) 10:30-12:30 (10:00 開場)
場所: 駐日 EU 代表部講堂 (東京都港区南麻布 4-6-28 ヨーロッパ・ハウス)
共催: 日本・EU 友好議員連盟、欧州議会対日交流議員団、駐日 EU 代表部、
EUIJ 早稲田

開会挨拶 イステイショアイア=ブドゥラ駐日 EU 大使

第1セッション: 日本と EU の共通の課題
人口問題(少子高齢化、人口集中、移民等)と女性の活躍

第2セッション: 日本と EU の協力
経済連携と戦略的パートナーシップ、その他幅広い分野

言語: 日英同時通訳、対象: 一般
参加: 無料・事前申込要

申込: 件名を「Japan-EU symposium」とし、Eメールにてお名前とご所属先を
日本語と英語で EU 代表部政治経済部・小林(yuki.kobayashi@eeas.europa.eu)
までお送りください。

<http://www.euij-waseda.jp/whatsnew/japanese-and-european-parliamentarians-symposium.html>

【EUSI 所属研究者による記事・執筆情報紹介】

中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 所長)
「EU 個人データ保護指令と私的な監視カメラによる自動録画」

【EU 法における先決裁定手続に関する研究(13)】

『自治研究』第91巻第9号(2015年9月) 111-121 頁

【EU に関するニュース】

- 2015年8月17日 Eurostat、6月貿易収支(速報値)はユーロ圏19カ国264億、EU28カ国104億ユーロで共に黒字
- 2015年8月17日 プーチン露大統領及びメドベージェフ露首相、クリミア同時訪問。現地指導者らと会談
- 2015年8月18日 ギリシャ政府、国内14空港運営権を独運営会社らに貸与。金融支援合意後初の民営化成立
- 2015年8月19日 ユーロ圏財務相会合電話会議、欧州安定メカニズム(ESM)にギリシャ支援実施権限を付与
- 2015年8月19日 欧州委員会、ギリシャと欧州安定メカニズム(ESM)による金融支援計画の覚書に調印
- 2015年8月19日 ステイリアニデス欧州委員、世界人道デーに寄せて EU の人道支援の取組に関する声明発表
- 2015年8月19日 NATO 加盟国、ウクライナ情勢について協議。ミンスク合意の遵守やロシアの責任など議論
- 2015年8月19日 財務省貿易統計、7月対 EU 貿易(速報値)は輸出7118億円、輸入7906億円で、788億円の赤字
- 2015年8月20日 英仏、仏カレーに移民指揮統制機関設立合意。ティーマーマンス欧州副委員長ら歓迎声明
- 2015年8月20日 ツィプラス・ギリシャ首相、辞任表明、パヴロプロス大統領に早期総選挙実施を求める
- 2015年8月20日 ギリシャ、ECB に対し本日期限の ECB 保有の34億ユーロ分のギリシャ国債を償還
- 2015年8月20日 マケドニア、難民問題で非常事態宣言。ギリシャとの国境監視強化などで難民流入抑制へ
- 2015年8月21日 欧州委員会、第二次大戦ナチズム・スターリン主義犠牲者追悼記念日に先駆け声明発表
- 2015年8月21日 バリ行き欧州高速鉄道タリス車内で銃撃事件発生。休暇中の米軍人らが犯人取押え

- 2015年8月22日 伊当局、リビアから密航の難民約4400人を地中海上で救助。1日の救助作戦では過去最大
- 2015年8月24日 独仏ウクライナ首脳会議、ベルリンで開催。東部情勢協議やミンスク合意遵守など確認
- 2015年8月24日 パヴェル NATO 軍事委員会新委員長、欧州連合軍最高司令部(SHARP:ベルギー)を初訪問
- 2015年8月24日 ウクライナ独立記念日。ポロシェンコ大統領、ロシア軍侵攻の可能性を警鐘する演説
- 2015年8月24-27日 武器貿易条約(ATT)第1回締約国会議、メキシコで開催。EU及び加盟国、会議成功歓迎
- 2015年8月25日 モグリーニ上級代表、セルビア・コソボ両国首脳と国交正常化会議。主要争点4点で合意
- 2015年8月26日 EU報道官、8月12日イラク・クルド人自治区での死刑執行を受け、執行停止を求める声明
- 2015年8月26日 ハンガリー警察、1日では過去最高の3241名の難民拘束。本年累計で14.5万人の難民流入
- 2015年8月26日 スウェーデン沿岸警備隊、地中海上リビア沖で439人の難民密航船を救助、52名遺体発見
- 2015年8月27日 トゥスク議長、ユンカー委員長、モグリーニ上級代表、ウクライナ大統領と同国情勢協議
- 2015年8月27日 EU・ウクライナ、エネルギー閣僚会議。冬季ガス供給やロシアとの三者協議準備など協議
- 2015年8月27日 西バルカン諸国首脳会議、移民問題協議。伊及びギリシャに難民登録機関設置など議論
- 2015年8月27日 オーストリア東部の高速道路上の保冷車内より71名の難民遺体発見。翌日3容疑者逮捕
- 2015年8月27日 地中海で約400名の難民を載せたイタリアに向かう密航船が沈没、約200名以上の難民死亡
- 2015年8月27日 ストルテンベルグ NATO 事務総長、ジョージア訪問。大統領らと会談、訓練センター開設
- 2015年8月28日 欧州委員会、8月ユーロ圏景況感指数は104.2で前月比+0.2、消費者信頼感指数は-6.9
- 2015年8月28日 UNHCR、欧州への移民・難民数が30万人突破と発表。20万人がギリシャ、11万人が伊到着
- 2015年8月28日 バグロプロス・ギリシャ大統領、議会解散、9月20日総選挙へ。女性初のサヌ暫定首相就任
- 2015年8月29日 EU運輸・内務相会合、8月21日高速鉄道タリス車内銃撃事件を受けテロ・鉄道安全協力協議
- 2015年8月29日 ハンガリー国防省、セルビアとの国境175kmにわたる越境防止フェンス設置作業完了と発表
- 2015年8月30日 オーストリア警察、東部高速道で車両検問。200名超の移民・難民発見、不法業者5名逮捕
- 2015年8月31日 欧州委員会、仏カレーでの難民保護のためテント設営ならびに520万ユーロの支援拠出
- 2015年8月31日 Eurostat、8月ユーロ圏消費者物価指数上昇率(速報値)は前年同月比0.2%、4カ月連続上昇
- 2015年8月31日 ウクライナ、改憲案審議中にデモ隊衝突、爆発事件発生。モグリーニ上級代表、哀悼声明
- 2015年8月31日-9月2日 第二期EU・中国通商計画(EUCTP II)、インターネット技術運用協力会議開催

【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、合六強 EUSI 研究員に執筆いただきました。
ウクライナの NATO 加盟問題という欧州の安全保障に関わる極めて興味深い内容です。ご本人は現在、ウクライナ在住です。
EU はグローバルな存在として大きな影響力を発揮しています。日本との間では、戦略的パートナーシップ協定(SPA)及び自由貿易協定(FTA)の締結に向け2013年4月より並行交渉がスタートし、2015年末の合意を目指して大詰めの段階に入っています。
確かに、日本とEUとの関係が長年に渡って経済中心であったことは否めません。市場経済の下で貿易、投資、金融などの面での企業活動や経済交流が太いパイプを築いてきました。もちろん、それと合わせて政策的なサポートが必要とされ、政府間の政策協議も行われてきました。それらを踏まえたよりハイレベルな政治対話、すなわち、総理、外相、経産相、農水相などが参加する日・EUサミットも回を重ねています。
また、もう一つの政治的なパイプとして、日本の国会と欧州議会との定期交流があります。1978年以来、年1回日本と欧州で交互に開催される定期会議として長い歴史を積み重ねてきました。会議の議題はやはり長年に渡って経済問題が

中心でしたが、EU が経済共同体から脱皮して活動領域を拡大するにつれ、また、欧州議会の権限が強化され、EU の意思決定における影響力が大きくなるにつれて、広範多岐にわたる問題を取り上げて議論するようになっていきます。いずれに EU との間に多彩なパイプを構築しておくことが望まれます。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSI メールマガジン編集担当)

一枚の写真というのは、時として強烈なメッセージを放つことがあります。これまでの歴史においても、様々な場面でアイコンすなわち象徴的なイメージとなる写真が数多く時代を彩ってきました。かつては、ロバート・キャパや沢田教一が撮ったベトナム戦争の戦火を逃れる人々の瞬間を切り取った写真や、戦後の天皇・マッカーサー会談時に撮られた写真は、当時の日本人に敗戦を強く印象付けた写真として伝えられています。また天安門事件でも、天安門前を突き進む戦車部隊の前に敢然と立ちはだかる無名の一市民の写真が、今でも天安門事件の日である毎年6月4日になると様々な媒体で、中国政府の検閲を逃れるべくデフォルメされながらも取り上げられています。そのような中で、先日トルコ南西部ボドルムの海岸沿いに打ち上げられた3歳のシリアの男の子アイラン・クルディ君の遺体写真は、全世界を駆け巡りました。同時にこの写真は、それまで流入数の急増やブローカーの介在などネガティブなイメージで捉えられがちであった移民・難民問題に対する世論を、受入れに向けた規範的な議論へと大きな一石を投じる写真ともなりました。昨日のユンカー欧州委員長による約80分もの一般教書演説の中でも、真っ先に取り上げられたのは移民・難民危機に対し今こそ具体的に行動することであり「それ以外に選択肢はないのだ」と力強いメッセージを発していました。移民・難民の受入れや再定住などの問題は極めて複雑な問題ですが、日本でも当然考えなければならない問題であるように思われます。国際貢献のあり方を考える上で、軍事力の動員などに目を向けるばかりではなく、そのような観点での社会的・経済的な環境作りを提供することもまた重要なことではないかと思われます。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン編集担当)

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo
〒186-8601 東京都国立市中 2-1
一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局
TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての
問い合わせにつきましてはこちら
E-mail: info@eusi.jp
